



# 槌と玉手橋

会期  
2003年4月16日(水)  
~6月8日(日)

## —登録文化財の紹介—

文化財講演会 5月25日(日) 13時30分~16時 定員60名

三木理史(奈良大学助教授)「柏原の近代化遺産と交通史」

石田成年(柏原市教育委員会)「柏原の近代化遺産」

# 槌と玉手橋



5月17日(土) 10時~15時  
高井田横穴公開と体験事業  
史跡高井田横穴公園にて開催

**柏原市立歴史資料館** 開館時間 9時30分~16時  
休館日 月・火曜日と祝日、4月30日

交通 JR大和路線高井田駅から徒歩5分・近鉄国分駅から徒歩15分

〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1 TEL 0729-76-3430



▲ れんが積みの細部

築留二番樋 ▶

近代化するうえで重要であったさまざまな建造物や工作物を<sup>きんだいかいさん</sup>近代化遺産といい、江戸時代末から第二次世界大戦終結ころまでを対象としています。<sup>かしわらし</sup>柏原市にも、トンネルや橋、橋脚、<sup>きょうきやく しゅすいひ</sup>取水樋、鉄塔などの近代化遺産がみられます。

これらの近代化遺産は、そのほかの文化財と同様に、とくに重要なものは<sup>じゅうようぶんかざい</sup>重要文化財に指定されますが、それ以外にも<sup>とうろくぶんかざい</sup>登録文化財として保護されています。指定文化財は現状を変えることなく保存していくことを基本としますが、登録文化財は活用を図りながら後世に残していこうとするもので、新しい文化財保護の考え方です。<sup>つきどめにばんひ たまたまばし</sup>柏原市でも、平成13年（2001）、築留二番樋と玉手橋のふたつの近代化遺産が国の登録文化財となりました。今回の企画展は、この2件の登録文化財を紹介し、近代化遺産の重要性についても理解を深めてもらうために企画しました。

<sup>つきどめにばんひ</sup>築留二番樋は、江戸時代の<sup>ふ ひ</sup>大和川付け替え工事（1704年）の際に、もとの大和川、現在の長瀬川に取水するために伏せられた樋に始まります。この二番樋は、100年近く前にれんが積みにされ、最大幅157cmのアーチ型の樋門となっています。そのデザイン的な美しさと保存状態の良さから登録文化財となりました。

<sup>たまたまばし</sup>玉手橋は、昭和3年に<sup>ふじいでらしどうみょうじ</sup>藤井寺市道明寺と<sup>か つ</sup>柏原市玉手の間の石川に架けられた<sup>しちゅう</sup>吊り橋です。支柱と支柱の間を<sup>けいかん</sup>径間といいます。玉手橋は日本最多の五径間吊り橋であるだけでなく、デザイン的にもすぐれた吊り橋です。もとは道明寺駅から玉手山遊園地への連絡道として、現在の近鉄によって架けられた橋です。玉手山遊園地は閉園されましたが、橋は今も地元の人々に親しまれています。

◀ 玉手側からみた玉手橋

▼ 橋の細部

